



1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

多様化する児童・生徒が将来の不確かな社会において生きる力を育むために、第2期の四国中央市教育の振興に関する大綱において、人がまんなか 子どもがまんなか 未来を拓く 人づくり ～「あったかな四国中央市の教育」～を基本理念に掲げ、本市の未来を担う子どもたちの多様な能力や可能性を最大限に引き出し、変化の激しい社会を生き抜き、グローバル社会で活躍できる人材の育成に取り組むことを提唱している。

ICTを活用した新時代の学びの推進の項目では、学校、家庭、地域が連携し、ICTを活用した子どもたち一人ひとりに応じたきめ細やかな教育体制を構築することを今後の目指す姿としており、確かな学力・豊かな心と健やかな体の調和のとれた生きる力を育む教育の実現を目指している。

2. GIGA第1期の総括

本市のGIGAスクール構想の実現に当たっては、早期に学校現場に最適な端末の選定を行っていたことから、いち早く整備を完了し、運用開始においては、Google for Education等のクラウドツールの操作研修を集中的に実施し、教職員のスキルアップに努めながら1人1台端末を活用し、コロナ禍を乗り越えてきた。

令和3年度の総合教育会議において、「つながる・広がる・新しい学び」のキャッチフレーズの下、ICT活用推進策として「GIGAしこちゅ～」プロジェクトを立ち上げ、授業改善、教職員研修や新しい事例創出にチャレンジする3つの方策を掲げ、モデル校を作らず全教職員でICT教育の推進に取り組んできた。

これまでの教職員の経験や知識に基づく指導法とデジタルの活用による個別最適化された学びと協働的な学びの一体的な創出を目指し、GIGAスクール運営支援センターやGIGAスクールサポーターを活用しながら、授業改善に努めてきた。

また、授業支援ソフト、AI型ドリル教材、学習者用のデジタル教科書等のデジタル教材の充実にも努めるとともに、民間資格の取得促進を進め、市内全小中学校が学校情報化優良校の認定を受け、自治体として学校情報化先進地域の認定を受けている。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の積極的な利活用について、これまで取り組んできた3つの方策をより充実しながら、ICTの活用方法の最適解を求め深い学びの実現を目指す。

(1) GIGAしこちゅ～ StuDX Style

- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を重点に、協働的な学びの充実に系統的に取り組む、子ども主体の学びを模索する。

- 端末の活用が目的とならないように、端末との対話から児童・生徒同士の対話を生む活用について、アナログとデジタルのベストミックスによる授業研究を継続する。
- コロナ禍で定着したオンライン授業について、市内、県内・県外、海外の学校との交流授業を学校規模や目的に応じて実施し、活用の幅を広げる。
- 発達段階に応じた持ち帰り学習の実施により、家庭や地域等と連携した学びの保障を図る。
- 指導者用デジタル教科書の活用に加え、学習者用デジタル教科書の活用を進め、学びの充実を図る。

(2) GIGA しこちゅ〜 教職員研修プログラム

- 企業や有識者、文部科学省の学校 DX 戦力アドバイザー等の協力のもと、定期的な教職員 ICT 研修を開催するとともに、各学校における校内研修の実施によりスキルアップの底上げを図る。
- ICT の活用段階に応じて、求められるスキルにあったテーマで研修を実施するとともに、様々なツールを複合的に使用しながらアウトプットの機会をすることで研修の質や学びの質を高める。
- 民間資格や各種認定による第三者による評価を受けることで、教職員のモチベーションアップと推進の方向性の統一を図る。
- GIGA スクール運営支援センターや GIGA スクールサポーターとともに、多様な形のサポート体制を構築し、授業力の向上を目指す。

(3) GIGA しこちゅ〜 チャレンジプログラム

- 教職員の創意を生かした発展的学習に取り組むとともに、活用事例を共有することにより、一層の ICT 活用を図る。
- 文部科学省リーディング DX スクール事業における実践事例の横展開を図る。
- 教科横断的なプログラミング教育を、各教育機関とも連携しながら実施する。
- 教育支援センターやサポートルーム等においても積極的に端末の活用を図り、理解度、進度に合わせて学習活動等の充実を図る。

なお、端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童・生徒向けの 1 人 1 台端末環境を引き続き維持するとともに、より一層の活用を目指す。